



# 2018-2019 年度 藤沢ロータリークラブ週報

2018-2019 年度 RI テーマ



インスピレーションになるう

第 2780 地区

ガバナー

脇 洋一郎

第 3 グループガバナー補佐 山口 俊明

■創立 / 昭和 29 年 6 月 3 日  
 ■事務所 / 藤沢市藤沢 93 新堀ライブ館 204 TEL : 0466-25-4000 FAX : 0466-26-9292 E-mail : info@fujisawa-rotary.com  
 ■例会日 / 毎週水曜日 12:30~13:30  
 ■第 65 代 会長 / 大小原 徹 幹事 / 藤田 浩二  
 ■例会場 / 湘南クリスタルホテル TEL : 0466-28-2111

NO. 15 第 3133 例会 2018 年 10 月 17 日 天候 晴れ

ロータリーソング「それでこそロータリー」  
 四つのテスト 大沢 勝実 会員

## 《ゲスト・ビジターの紹介》

ゲストスピーカー：沼 彩加 様  
 (2017-18 年度青少年交換学生アメリカ派遣  
 /湘南学園高等学校)  
 (紹介者：椋梨 会員)

ゲスト：沼 りえ 様  
 (沼さんのお母様/川崎 RC)  
 (紹介者：椋梨 会員)

ビジター：堀 一久 様 (東京 RC)



## 《入会式》

鈴木 大次 会員  
 宗教法人 白旗神社 代表役員 宮司  
 (紹介者：田中 正明 会員)



## 《副会長報告》

大小原会長が、第 3G ゴルフコンペでご欠席のため、和田副会長より、ご報告

- ・10 月 14 日(日)の地区大会開催のお礼状が、脇ガバナーと、原田大会委員長より参りました。
- ・仙台南 RC 鈴木会長より訃報のご連絡  
 仙台南 RC の会員で、長年、ロータリー活動にご尽力なさり、交歓行事の中心的役割をに担われた菊地 正弘がご逝去なさいました。

## 出席報告 ( )内は計算に用いた会員数

例会月日	会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率	メイクアップ 会員数	修正出席者数	修正出席率
10月3日	44(44)名	30名	14名	68. 18%	3名	33名	75. 00%
10月17日	45(45)名	28名	16名	62. 22%			

- ・ご親交深かった小島会員よりご報告  
菊地会員の奥様にうかがったところによると菊地会員は、5月頃から具合が悪く、9月にご逝去なさいました。仙台南 RC では最古参の会員で、四十年来のおつきあいでした。ご葬儀は終えられてますが、10月25日(水)、クラブで追悼例会を開催するそうです。お悔やみを申し上げます。

結婚記念日 10月16日 岩田 和 会員  
10月21日 大沢 勝実 会員  
10月22日 鈴木 大次 会員



### 《幹事報告》

- ・北海道地震義援金の募金、まだの方、再度ご協力いただける方、よろしく願いいたします。

### 《委員会報告》

- ・棕梨 会員より  
国際奉仕、職業奉仕で、11月29～12月2日、カンボジアに行っています。衣料品、文具などありましたら持っていきますので、お願いいたします。  
青少年交換について  
次年度青少年交換派遣学生、湘南学園からの推薦学生の面接を明日、行います。後日、結果をお知らせいたします。
- ・泉 会員より  
先日、地区大会に初めて出席いたしました。多くの皆様に囲まれ、長寿会員のお祝いをしていただきました。ありがとうございました。

### 《スマイル報告》

沼 りえ 様 (沼 彩加さんのお母様/川崎 RC)  
娘が卓話させていただける機会をありがとうございます。RC 交換留学生の体験を生かし、世の中のお役に立てる立派な女性になる努力をしてほしいと思います。本日は宜しく申し上げます。

堀 一久 様 (東京 RC)  
いつも杉本がたいへんお世話になっております。メイクアップで参りました。今後ともよろしく願いいたします。

小島 正幹 会員  
卓話をお聞きしたいのですが、どうしても早退しなければなりません。

泉 信子 会員  
堀さまようこそいらっしゃいました。鈴木会員、ご入会おめでとうございます。先日、地区大会に行って参りました。

田中 正明 会員  
本日は鈴木会員 入会お目出度うございます。未永くご活躍をお願い申し上げます。

岩田 和 会員  
結婚記念日のお祝い有難うございます。あっと云うまに60年たってしまいました。残り少ない日々を仲良くしようと努力してま

### 《お祝い》

会員誕生日 10月17日 大野木 加代子 会員



棕梨 兼彰 会員

堀様 本日はようこそ。

沼さん、彩加ちゃん、卓話たのしみです。

大野木 加代子 会員

おたんじょう祝いありがとうございます。

注意一秒ケガ一生 今年はケガをしないよう  
気をつけます。

長津 豊 会員

沼さん ようこそ。

本日の卓話 楽しみにしています。

川上 彰久 会員

堀さん ようこそいらっしゃいました！

先日は、本当にありがとうございます。

沼さん今日はたっぷりお話してください。

鈴木宮司 今日からよろしく！

藤田 浩二 会員

堀様 ようこそ！！

鈴木さん これから宜しくお祈いします。

沼さん 卓話楽しみにしています。

大沢 勝実 会員

結婚記念日のお祝いありがとうございます。

小澤 智幸 会員

大野木さん、お誕生日おめでとうございます。

毛利 英昭 会員

大野木様、お誕生日おめでとうございます。

鈴木 大次 会員

本日より、どうぞ宜しくお祈い致します。

をさせていただきます。

よく小島会員より、「藤沢 RC には 2 人のボスがいた」という話が出ます。一人はビスケツト、一人はピンポン玉。そのピンポン玉が、私の仲人で、向原閑一さんという方。人を介して、私に白羽の矢を立てた。二日後にお見合いをさせ、本人同士は性格も知らないし、あまり話もしたことがないのに、向原さんは決めてしまった。向原さんというのは、独創的な独自の考え方を持った方だった。一方、岩崎さんは、ロータリーを愛し、牽引してきた創業者だった。その対極に立つボスだったのが、向原さんだった。向原さんと一緒になる機会に、よくロータリーの話を聞いた。悪いことを言ったことは、一度もなかった。向原さんに「50 歳までは引き継いだ事業をお父さんに従って、一生懸命やりなさい。50 歳になったら、ロータリーに入ってほしい」と言明され、50 歳を過ぎて入会した。入会して 25 年になる。今後ともよろしくお祈いいたします。

## 《卓話》

### 『2017-18 年度青少年交換留学生 オレゴン州からの帰国報告』

湘南学園高校 沼 彩加 様

(紹介者: 棕梨 会員)

## 《小話 3 分間スピーチ》

田中 正明 会員



鈴木会員の入会式ということで、私の入会当時のお話

Rotary District 2780 rotary youth exchange

RID2780 2017-18 YOUTH EXCHANGE  
OUTBOUND STUDENT

## 帰国報告

派遣国 / 地区: アメリカ 5110地区

スポンサークラブ: 藤沢ロータークラブ

氏名: 沼 彩加



留学のきっかけは、中学生の頃、日本とは異なる文化、生活様式を持った国々に興味を持ったこと。最初に中学 1 年生で、オーストラリアに短期留学し、さらに海外への興味が高まっていった。ブラジル、フランス他、海外からの留学生の受け入れをしながら、短期間ではなく、長期間、海外で暮らしてみたいと思うようになり、ロータリーの青少年交換学生に応募した。





最初に流暢な英語でご挨拶して下さいました。

アメリカ派遣が決まり、大都市に行くのではないかと  
思っていたが、行くことになったのはオレゴン州。  
最初どこにあるかも知らず、調べていくと、たいへん  
な田舎なのだとわかった。しかも派遣されたのはオレ  
ゴンの中でもさらに田舎のローズバーグという街だ  
った。街にはショッピングセンターもなく、どこに行  
くにも車が必要だった。



お世話になったホストクラブは、ローズバーグモー  
ニングクラブ。会員 20 名ほどの小さなクラブで、毎週  
水曜日の朝 7 時からミーティングがあり、学校に通学  
する前に参加していた。藤沢クラブの例会では、皆さ  
んスーツだったり、きちんとした服装だが、アメリカ  
では、T シャツに短パン立ったり、ランニングのつい  
でに来るような人もいた。ホストクラブの皆さんはと  
ても優しく、いろいろなことを教えてくれた。  
最初にお世話になったのはホストファミリーは、  
Marchi 家。暮らし始めて数日がたった頃、「洗車に行  
くから準備して」と言われた。洗車など日本でも珍し  
いことではないのにと考えたが、目的が違っていた。  
家の車を洗うのではなく、ホストシスターがスペイン

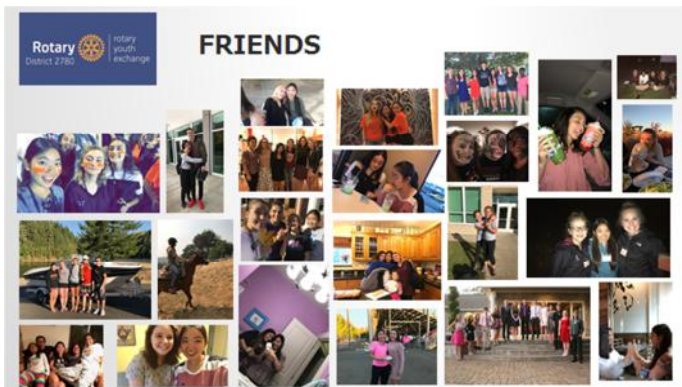
に行くために洗車をして、お金を稼ぐことが目的だ  
った。洗車しなくても協力してくれたり、車を持って  
いない人も助けてくれた。アメリカでは、洗車の制度が、  
高校生のお小遣い稼ぎや、ボランティア、クラブチ  
ームの資金集めで盛んに行われている。親のお金に頼  
るのではなく、何かやりたいことのために、自分で稼  
ぐ考えなのだとすることを学んだ。

休日はホストシスターと乗馬、スイムスポーツ、ハイ  
キングに言ったりした。家には、馬、羊、鶏がいて、  
日本ではできない経験をした。動物のにおいと触るこ  
とがいやで、最初はいやだったが、段々慣れて世話が  
できるようになり、最終的に小屋の掃除までするよ  
うになった。とても自然が豊かな生活をしてきた。

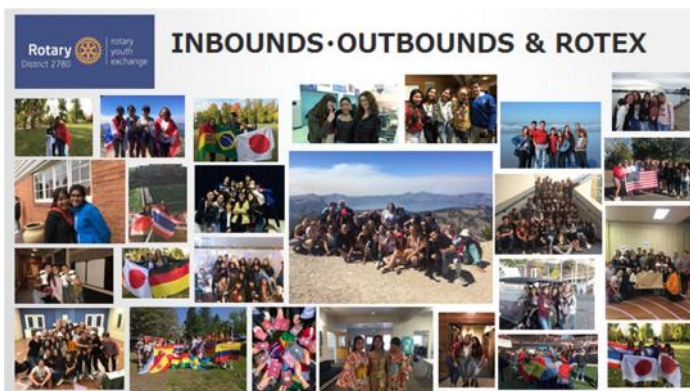


学校が始まり、まだ暗い朝 6 時半過ぎに家の前にスク  
ールバスが来ます。授業では、日常生活では使わな  
いようなアカデミックな英語に苦戦した。日本では英  
語が得意だったので心配していなかったのだが、本  
場の英語は、日本で学んできたものとは全く違っ  
て、スピードが速く、発音の違いから聞き取って  
もらえ名ことが多々あった。そんな中、日本より  
も多くの宿題が出ていた。授業は、日本のような  
板書式ではなく、先生や生徒同士のディスカ  
ッションや実験、映像を見る授業がほとんどだ  
った。校則はほとんどなく、服装や髪型、化粧  
なども自由だった。授業はカジュアルで、先生  
が机に座って授業したり、生徒が授業中にジ  
ュースを飲んだり、スナックやガムを食べて  
いても、音楽を聴いていても注意されることは  
なかった。日本とアメリカの高校の違いを一番  
実感したのは、アメリカの銃社会が反映されて  
いることだ。通っていた高校では、半年に一度、  
拳銃を持った人が来るという訓練があった。実  
際、在学中に銃撃事件があり、警察が総動員  
で犯人を逮捕した。警察官が学校に常駐して、  
毎日、警備をしている。



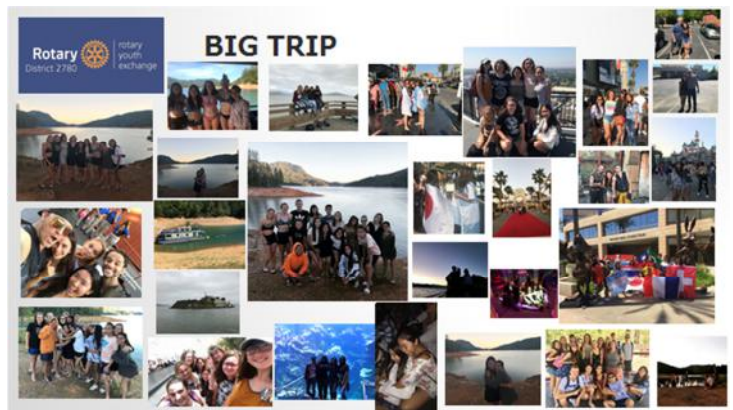


友達については、たくさんの楽しい思い出を一緒に作ってもらった一方、苦しめられることもあった。ドライブ、ボーリング、映画やショッピングなどに行ったりした。学校で行われたホームカミングやプロムなどにも一緒に参加した。自分の語彙力のなさからくる英語の不安で、友達とのすれ違いがおき、間違いを正せず、悲しくなることがあった。しかし、本当に思っていることを必死で伝え、理解してもらい、さらに絆が深まったと思う。彼らがいなかったらこれまで頑張れなかつと思う。いろいろなことを教えてくれる大切な存在となった。

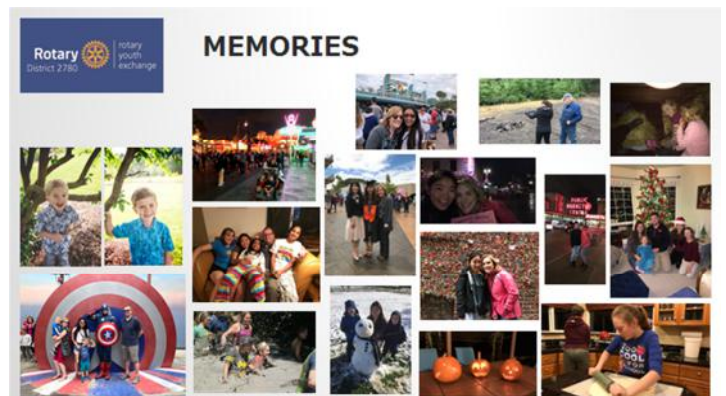


オレゴン州の5110地区には24名のインバウンドと、次年度、海外に行くことになるアウトバウンドの高校生が50名いた。両方あわせた全員で2ヶ月に一度ミーティングが行われ、旅行に行ったり、フットボール観戦、キャンプ、クリスマスパーティーをしたりした。インバウンドたちは、同じ悩みや辛いことを共有できる仲間だった。学校の友達には理解してもらえない、留学生としての悩みや辛いことをインバウンドの仲間たちに相談することで、本当に救われた。電話やメッセージで常に連絡を取り合っていた。最初のキャンプではぎこちなかったが、段々打ち解けていき、最後には大きな家族のような存在となった。

派遣の最後にインバウンドだけで行われる8泊9日のビクトリップに行った。オレゴン州からカリフォルニアまでのバス旅行で、サンフランシスコ、ディズニ



ーランド、ワーナースタジオ、ハリウッド、ユニバーサルスタジオなどを観光した。バスの中で一泊すると、カリフォルニア北部のシャスタレイクに到着した。宿泊できる水上ボートに泊まり、湖で泳いだり、ウォータースライダーや、シューティングを楽しんだ。生活用水がなかったのも、湖の水がシャワーだったことが思い出となった。夕食のバーベキュー、キャンプファイアー、みんなとボートの屋上で、星空を見た。帰りのバスで、この旅行を終えるとこのメンバーとしばらく会えなくなるという思いから、自然と皆泣いて、一年を通して、辛いこと悲しいことそしてたくさんの楽しいことを一緒にやってきた仲間との別れに胸が苦しくなった。この旅行は、一生忘れることのない、とても大切なものになった。



思いではたくさんあるが、ホストファミリーのことにしようかいる。セカンドホストファミリーには、3歳と5さいの小さな兄弟がいる。子供嫌いなので、最初は彼らとうまくやっていけるか不安だったが、彼らはそんなことにかまわず、毎日笑顔で向かってきてくれたおかげで、今では実の弟たちのようにかわいく思っている。雪の積もった日、一緒に雪だるまを作ったことが思い出にある。ディズニランドにも連れて行ってもらい、ホストマザーとアメリカでは誰もや

っていない双子コーデをした。ホストマザーは親日家でとても気が合い、シアトルにも2人で旅行に行った。ファーストホストファミリーでは、アメリカならではの射撃体験をさせてくれたり、初めてのジャックオーランタンづくりをさせてくれた。

日本の文化を広めるために、うどんを作った。2時間で作れる予定だったが、実際は、6時間もかかってしまい、食べることができたのは、夜の11時だった。それ以後、うどん作りは冷凍食品を使うようにした。



アメリカでは、季節によって部活動が変わる。私は、秋にクロスカントリー、トラックでは丘や森の中を走る競技に参加した。日本でそれほど走ったことがなかったので足に豆ができたり、皮がむけたりした。渡航したばかりでまだ友達もいなかったのでも、何度もやめようと思ったが、ここで負けたくないと思い、頑張っけて続けたことで、友達ができるきっかけになった。ラクロスは、春のチームスポーツ。スティックを使ってボールを運ぶのだが、最初スティックでボールをキャッチすることができなかったが、友達に教えてもらいながら練習を続け、最後にはスタートメンバーとなり、試合に出られるようになった。



この留学を通して学んだ二つのことを伝えたい。一つ目は、自分の意見をしっかり持ち、それを主張できるかということ。授業のディスカッションで自分の意見を持つということに苦労した。日本だと多数の意見に賛成し、流されがちだった。アメリカでは、人と

考え方や意見が違うのは当たり前のことであって、合っているか、間違っているかが大切なのではなく、自分なりの考えや意見を持つことが大切なのだとということに気づいた。違った意見の中に発見があったり、より良い答に出会えるということにも気づいた。

二つ目は、一歩踏み出す勇気の大切さ。最初は友達もなく、英語への不安もあり、人に話しかけることにどきどきしていた。しかし、勇気を持って踏み出すことによって、新たな開ける道や、新たな出会いのきっかけになった。その先に何が起こるかわからない、自分が傷つくかもしれないという不安の中で、今日からの一歩を踏み出すことは、本当に難しいことだが、この一歩を踏み出さなかったら、私の留学生活は変わっていたかもしれないし、たいせつな友達とも出会えていなかったかもしれない。

日本ではできないような経験ができ、面白いこと、楽しいことがたくさんあった。それよりも考えさせられることや、苦しいこと、悲しかったこと、失敗したことも山ほどある。それを含め、ロータリーの方々のサポート、ホストファミリー、友人の助けがあったからこそ、この1年間をやり切ることができたと思う。留学前は不安のあったが、帰国後、留学したことは、本当によかったと思っている。自分が進みたいと思っている道や、目標を見つけることができた。今は、胸を張って、アメリカで最高の一年を作ることが出来たと言える。



ロータリー青少年交換学生の証!!  
世界中に友達ができ、交換してきたバッチ、キーホルダーやステッカーだらけのジャケット!!





堀様、いつもありがとうございます。



棕梨カウンセラーより、沼さんのご紹介



田中会員より、鈴木新会員のご紹介



沼さんのお母様よりご挨拶



本日のお料理

